

2021年5月2日

アーツ前橋における借用作品の紛失及び前橋市の対応について

前橋市長 山本龍 殿

美術評論家連盟  
会長 林道郎



美術評論家連盟は、アーツ前橋における借用作品の紛失及び、それに対する2021年3月24日付のアーツ前橋作品紛失調査委員会による調査報告書に強い懸念を抱いています。

アーツ前橋の作品管理に大きな問題があったことは、所属会員に美術館員も多く抱えている当連盟として、深刻な事態であると重く受け止めています。アーツ前橋のような公立の中規模館が、借用作品の保管場所として、管理主体が美術館でない無人の外部施設を使用したことは杜撰であったと言わざるを得ません。今後このようなことが生じることのないよう保管場所及び管理体制の整備に適切に取り組むことを求めます。

他方で、作品紛失に対する調査報告書にも大きな問題があります。この調査報告書をまとめたアーツ前橋作品紛失調査委員会は、7名の委員のうち5名が、当事者である前橋市の職員であり、問題の大きさに対して十分な客観性が担保されていないことを憂慮します。公共的な役割を担う美術館や博物館で生じた問題に対して、改善を真剣に考慮するならば、このような第三者性・中立性を欠いた調査が前例となることには強い危惧の念を抱きます。

さらに調査報告書が、そもそもの原因である作品紛失に関して、今回の紛失自体に関わっている教育委員会の責任や過失の可能性について詳しく検討しないなど、適正で十分な調査を行った形跡がうかがえないことも大きな問題です。本報告書は、著作権者への報告の遅れについては詳しい報告がある反面、作品紛失がなぜ、どのようにして起こったのか、また、その背景に管理体制を含めいかなる問題があったのかについては、甚だ不十分な内容で終わっていると言わざるを得ません。今後の改善に向けての提言も、抽象的な定型をなぞるばかりで具体性に欠けています。

美術評論家連盟は、美術作品の評論だけでなく、作品が制作、展示、保存される環境の構築も重要であると考え、芸術文化に関する諸問題について広く意見や提言を行ってまいりました。美術館が適切に作品を保管できるように環境を整備すると同時に、公共財になる予定であった作品がなぜどのように紛失したのかを明らかにすることが、芸術文化の振興を担う行政の大きな役割のひとつであると考えます。前橋の美術をはじめ芸術文化に関して実績を積み重ね、重要な拠点として地歩を固めてきたアーツ前橋のさらなる発展のためにも、作品紛失そのものに真摯に向き合い、第三者委員会による適正かつ十分な調査を行うことを求めます。